



No. 113 2021.6.16

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

## コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU  
明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

### ここがどこかおわかりになりますか？

これらの写真を見てどこかおわかりですか？  
この場所に何があったかご存じですか？



1970年（昭和45年）、日本万国博覧会（大阪万博）が開かれた年、この場所で明石市立朝霧中学校が産声を上げました。

1970年というと

主な出来事

日本万国博覧会開幕。日本航空機よど号ハイジャック事件。  
ボーリングブーム。マクドナルド日本1号店が銀座にオープン。

ヒット曲

皆川おさむ「黒ネコのタンゴ」ドリフターズ「ズンドコ節」  
藤圭子「圭子の夢は夜ひらく」

1970年は高度経済成長期真っただ中で、明舞団地も高度経済成長を支える子育て世代の住宅として、全国各地に造成されたニュータウンの一つです。その一角に朝霧中学校は開校しました。そして

児童数増加で松が丘小学校から1975年（昭和50年）に分離した松が丘南小学校が朝霧中学校と1977年（昭和52年）に校地・校舎を交換する形でこの場所に移転してきました。その後松が丘幼稚園から分離した松が丘南幼稚園もこの場所に開園しました。そして高度経済成長からバブル時代を経て1998年（平成10年）に児童・園児数の減少にともない松が丘南小学校・松が丘南幼稚園は約1/4世紀という歴史に幕を閉じました。その後高齢者大学あかねが丘学園の施設・朝霧コミュニティセンターとして利用されていましたが、2020年秋頃から解体工事が始まり、とうとう運動場の法面の松の木も伐採され、この一角が造成された頃の姿に戻ってしまいました。



2017年夏撮影（松が丘小学校ホームページ 動画ページより）

[http://scwww.edi.akashi.hyogo.jp/~el\\_mtgk/custom7.html](http://scwww.edi.akashi.hyogo.jp/~el_mtgk/custom7.html)

この場所でスタートした朝霧中学校は昨年創立50周年を迎えました。先日朝霧中学校の2回生である友人とばったりあい、その友人から開校してまもない運動場や校舎についての思い出を聞くことができました。校舎が建ち、その校舎がなくなるという両方の目撃者になることは珍しいことなんだろう

などと思います。このコロナ禍の中で、校舎がなくなっていくのを目の当たりにして、長い学校の一つの時代が終わり、新しい時代の学校が始まる転換期なんだなとしみじみ感じました。明石市の教職員の中で、ここに松が丘南小学校があった、松が丘南幼稚園があったということを知っている人は少なくなっているんでしょうね。

### これからの学校 新たな学びのスタイル

6月12日（土）にNHK ウワサの保護者会で“これからの学校”をテーマに「変わる！？これからの学校」が放送されました。私は見逃してしまいましたが、探求型の学びを実践されている学校での子どもたちの学びの様子を紹介しながら“これからの学校”について考える内容の番組だったそうです。番組では毎週水曜日に教科の枠を超えて自分の選んだテーマにそった探究をおこなう新渡戸文化中学校、40年以上前から探究に取り組む伊那小学校、異年齢学級を取り入れた常石小学校等での子どもの学びの様子を交えながら熊本大の苦野一徳先生が探究の大切さを語られたそうです。

その再放送が6月19日土曜日の午後0：30～0：55の時間帯であるそうです。

これからの学校の方向性を考えるヒントになるのではと思っています。

また、6月14日には軽井沢風越学園の「オンライン授業見学会」が開催されたそうです。有料で平日開催という条件でも200名を超える参加者があったそうです。子どもたちの学びの様子を動画で紹介しながら、どうしてこうした学びが必要なのかを一つ一つ説明され、視聴者からチャットでの質問を受け付けながらの対話がおこなわれたそうです。こうした学校での子どもたちの学びの様子を説明し、ゴールを共有していくことが「社会に開かれた教育課程」には必要なんだろうなと思いました。授業参観ではなく今まで教員向けにおこなっていた研究発表会的な子どもの学びについて保護者や地域の方を交えて対話をかさねていくことがこれからは大切になってくるんだろうなと思います。

その軽井沢風越学園では5月から毎月14日に「オンライン授業見学会」（8月・11月除く）を実施されているようです。私も参加したことがないので7月の「オンライン授業見学会」には参加できたらと考えています。（詳しくは軽井沢風越学園HPをご覧ください）

（文責：北本）